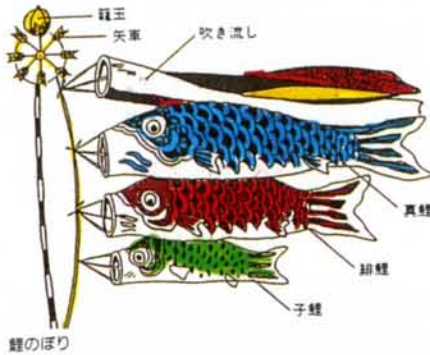


年中行事 3 (夏から秋)

大野城市教育委員会

端午の節供



5月5日は子供の日です。子供の日は「子供の人格を重んじ、子供の幸福をはかるとともに、母に感謝をする日」として1948(昭和23)年に国民の祝日にされました。昔は端午の節供は日本の伝統的行事として3月3日の女兒の桃の節供に対して男児の節供とされていました。節供についていろいろ説がありますが、奈良時代から行われ、特に武家の時代に尚武の思想が「しょうぶ(菖蒲)」に通じました。菖蒲や蓬を使うのは、香りの高い植物で魔除けにして子供のすこやかな成長を願い悪疫を除くのが目的だったそうです。

雨乞い

稲作りが盛んな昔は水は大切なものでした。都市化が進んだ今でも水不足は困ります。旱天が続くとどこの村でも「雨乞い」をしました。今では迷信ということではいつのまにかやめました。大野村でも昭和の初め頃まで雨乞いをしていました。雨乞いは「リョウ(龍)」を桧の枝や藁を束ねて作りました。胴の直径は3~40cmで長さは5m程です。胴の中には蛇を捕えて入れ坊さんにおがんでもらい、龍をかついで鐘や太鼓を叩きながら村内を巡り、最後に四王寺山の鏡ヶ池に持ち上げて池の中に入れたそうです。



七夕



願いごとを書いた短冊、星などを飾る七夕飾り

日本古来の民間信仰に中国の牽牛、織女の星祭りが重なってできた行事です。牽牛星は農事を、織女星は養蚕裁縫を司どる星といわれています。二つの星の物語は知っていると思いますが七夕は昔奈良時代宮中行事でした。江戸時代は武家行事の五節供の一つで、笹竹に五色紙をつるし軒端に立てる風習がありました。青森県弘前市のねぶた祭り(眠りを払う)、長野県松本市は軒端に七夕人形をつるし、その年生れの子の無病息災を祈願する行事もあります。昔大野村では朝早く起き、稲の葉についた露や里芋の葉の露で墨をすり短冊に書き笹につるしたり、神棚に下げ野菜等を供えたそうです。

お盆 旧暦 8月13～15日 (新7月13～15日)



盆綱引き

昔大野村では、盆行事として盆綱が盛んでした。(牛頭・互田・筒井・山田・仲島・中・乙金・釜蓋) 乙金では、お盆の前に村の子供達が、近所の山から「カズラ」を取ってきました。それを「カズラタチ」と言い、そのカズラを「ゼンイチの池」に漬けて置き、前日これを引上げ、その後で村の年寄りが大きな木の枝に掛けて下げこれを捻りました。直径が30cm以上もある大綱で長さも10m位ありました。15日にこの綱を上方と下方に分かれて引き、年寄りはこの時「祝いめでた…」を歌いました。盆が終ると子供達がこの綱を切って売りにいきました。



お月見

昔大野村では、10月の名月の日には、芋などを煮て月見をしました。家々ではその芋を屋敷のそこそこに隠しておくと、村の子ども達がやって来て「名月様ください」といって、隠してある芋を探し出して貰うならわしでした。牛頭では9月9日を栗節供、互田では10月10日を栗名月といいました。月見は地方によって八月か九月に行うようです。旧暦の八月十五日の月を「仲秋の名月」といって月の出る方に秋の七草から選んで供えました。月見団子や芒・秋の果物を供える風習は都会で始められたそうです(秋の七草は、はぎ・すすき・くず・なでしこ・おみなえし・ふじばかま・ききょうの七種です)。



名月や 池をめぐりて 夜もすがら 芭蕉